

国際学会参加報告

Pacifichem2025 参加報告書

東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任助教
安藤翔太

s-ando@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

この度、日本核磁気共鳴学会の2025年度第2回若手研究者渡航奨励金のご支援をいただき、2025年12月15日～21日に米国ハワイ州ホノルルで開催されたThe 2025 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies

(Pacifichem2025)に参加しました。本奨励金により、公開学会に参加させていただきましたことを、故京極好正先生、故阿久津政明様ならびにご家族の皆様、株式会社LAシステムズ、日本核磁気共鳴学会会長 木川隆則先生、若手研究者渡航奨励金選考委員長 池上貴久先生をはじめとする関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

本大会の開催地であるホノルルは雨季のため朝方、夕方にスコールが降り、湿度が高いものの日中の気温は25度前後で過ごしやすい気候でした。学会会場であるハワイコンベンションセンターの周辺は高層ビルが並ぶ都会的な雰囲気があり、十数分歩くと海岸からダイヤモンドヘッドを眺めるハワイならではの風光明媚な環境で学会が開催されました。12月14日にJALホノルルマラソンが開催されていたこともあり、日本人観光客も多く街中は賑わいに溢っていました。本年は参加者約14,000人以上で国際学会でも最大規模で、オープニングセレモニーはハワイの伝統的な音楽とダンスで彩られ、華やかなスタートを切りました。私は「Environmentally friendly sustainable thermoset vitrimer-containing polyrotaxane for circular economy」というタイトルで発表を行いました。ビトリマーという常結合性動的共有結合を有する熱硬化性材料にポリロタキサンというトポロジカル超分子化合物を導入したトポロジカル2元動的ネットワーク材料のサステイナブル機能について研究成果を紹介しました。様々な研究者からポジティブなコメントを頂き、今後の新たな研究方針を模索するきっかけとなりました。世界各国から集結した研究者の先駆的な研究発表は大変興味深く、大きな刺激を受けました。今回の海外渡航での学びを活かし、精進してまいります。



オープニングセレモニーの様子